



ミツバチの女王はなぜ1ぴきのなの

ミツバチの巣は、1ぴきの女王バチが支配する

ミツバチは、社会生活をする昆虫といわれます。一つの巣の中には、必ず1ぴきの女王バチと、たくさんのはたらきバチ、それから、オスバチがいます。そして、それぞれのハチは、役割がきちんと決まっています。

女王バチの仕事は、卵を産み続けること、オスバチは、次の女王バチと結婚することです。みつ集め、卵や幼虫の世話、女王バチの世話などは、はたらきバチの役目です。

巣を支配しているのは、女王バチが体から分泌している、特別の物です。これをなめたり、さわったりすることで、巣全体のハチが、まとまって自分の役割をきちんとやります。

もし、2ぴきの女王バチが巣にいるとしたら、この支配が、めちゃめちゃになってしまうことでしょう。一つの巣に、女王バチは、1ぴきだけしか、いられないのです。

新しい女王バチが生まれると、巣は分かれる

初夏のころ、ミツバチの巣に、次の女王バチを育てるための特別なへやが、いくつか作られます。そして、このへやに産みつけられた卵は、ローヤルゼリー（はたらきバチの体で作られる）という特別なえさだけで育てられます。次の女王バチが、さなぎから羽化する1週間ぐらい前になると、巣のはたらきバチの半分と女王バチは、巣から飛び出します。別な場所で、新しい巣を作るのです。

古巣では、最初に羽化した女王バチが、まだ羽化していない、ほかの女王バチを針でさし殺して、自分が1ぴきだけの女王バチになります。女王バチのもっている針は、ほかの女王バチを殺すためだけに使われます。（監修・中山 周平）

